園内のみどころ

① 旭橋（あさひばし）と旭門（大手）、桝形石垣

生駒家時代は桜の馬場の南に大手門がありました。旭門は慶文11年（1671年）頃、松平家が行った城の改修により設けられた新しい大手門です。門に対し斜めに架かる旭橋は敵に横方向から攻撃できる構造となっていて、敵の進入を防ぎます。欄干の親柱には松平家12代御当主の親善伯爵の「旭橋」と昭子夫人による「あさひはし」の文字がみられます。旭門を入ったところにある桝形石垣は、攻め込んだ敵を包囲するためのものです大きな切石の乱積みが見るものを圧倒します。桝形の北側には埋門があり、南側には太鼓御門がありました。

⑤ 陳列館（ちんれつかん）

築城から現代までの年表、高松城や歴代藩主などに関する文化財や資料、古写真等を展示しています。国宝詩歌紙幅原在屏書（複製）、高松城天守模型、高松城天守絵（複製）高さ約2m、高松城下図屏風を参考に作成した高松城・城下町模型、取壊し前の高松城天守を含む明治15年撮影の高松城周辺の写真（平成17年、英国ケンブリッジ大学図書館で発見）、彦根城・高松城姉妹縁組式典（昭和41年）、水戸市・高松市親善都市提携調印式（昭和49年）の様子もあります。

② 貝櫓（かいやぐら）（旧太鼓櫓跡）

［昭和25年8月29日 重要文化財指定］

貝櫓はもともと東の丸の北東の隅（現在の県民ホール敷地内）にあった櫓で、北東の方角を丑寅ということからこの名前があります。完成は延宝5年（1677年）といわれ、月見櫓と同時期につくられました。三重三階・入母屋造・本瓦葺で、形は月見櫓と似ていますが、切妻に大きな千鳥破風がある のが特徴です。昭和40年に当時の所有者であった旧国鉄より高松市が譲り受けて、2年の歳月をかけて、東の丸より旧太鼓櫓跡に移築されました。

③ 桜の馬場

生駒家時代には南端に大手門があり、広場には藩政を行う対面所等がありましたが、松平家時代の改修によりこれらの施設はなくなり馬場になったようです。現在は桜が植えられ、お花見の場として市民に親しまれています。

④ 桜御門（さくらごもん）

三の丸入口の櫓門で昭和20年（1945年）の米軍による高松空襲で焼失しましたが、令和4年（2022年）7月、77年ぶりに復元され蘇りました。復元には、古写真と礎石に残る柱跡等が有力な手掛かりになりました。門に付けられた棟瓦は白麻地に紺色の桜紋柄3種類あり行事により付け替えます。

⑥ 披雲閣（ひうんかく）

［平成24年7月9日 重要文化財指定］

延床面積は1,887㎡。

松平藩時代にも現在の場所に披雲閣と呼ばれる広大な建物（現在の約2倍）がありました。藩の政庁及び藩主の住居として使われていましたが、明治時代老朽化により取り壊され、その後、3年の歳月と当時のお金で15万余円の巨費を投じて、大正6年（1917年）現在の披雲閣が完成しました。披雲閣には142畳敷の大書院をはじめ、横の間、松の間、蘇鉄の間などが雅致を生かした部屋があり、波の間には、昭和天皇・皇后両陛下が宿泊されました。第22次世界大戦後しばらく占領軍に接収されていましたが、高松市が譲り受けてからは、貸会場として会議、茶会、華展などに利用され、市民に親しまれています。

官休庵（武者小路千家）と松平家（まつだいらけ）

高松松平藩と茶道三千家のひとつ武者小路千家は、始祖千宗旦（せんのそうたん）が高松藩祖松平頼重に茶頭として仕えて以来、茶の道を通じて今日も強く結ばれています。松平家が所有する楽焼茶碗「木守」は、千利休が作らせたもので、歴代の武者小路千家当主が「宗守」を襲名する披露茶会には必ず使用され、そのときには武者小路千家から松平家に、拝借の使者が立てられます。

園内案内図

⑦ 披雲閣庭園

［平成25年10月17日 名勝指定］

この庭は披雲閣の建築にあわせて、大正6年（1917年）頃築造された枯山水の庭で、江戸時代の庭園の一部が残ります。巨大な石灯籠や重さ11トの手水鉢等が見どころで、昭和天皇・皇后両陛下の御手植松もあります。

⑨ 水門

この城は堀が海とつながっているので、潮の干満による水位調整のため水門が設けられています。堀にはタイやヒラメなど海の魚がいて、鯛のエサやり体験「鯛鯛城就」や和船「玉藻丸」の内堀遊覧「城舟体験」（3月～11月）を楽しむことができます。また、6月の第一日曜日には水任流保存会による「美公様追悼游泳祭」が開催されます。

⑧ 月見櫓・水手御門・渡櫓

［昭和25年8月29日 重要文化財指定］

月見櫓は北の丸の隅櫓として延宝4年（1676年）頃に完成したといわれ、出入りする船を監視する役割を持つとともに、藩主が江戸から船で帰られるのをこの櫓から望み見たので「着見櫓」ともいわれています。総塗籠造りの三重三階・入母屋造・本瓦葺で、初重は千鳥破風、二重は唐破風と錣根の形を対象させています。月見櫓に連なる薬医門様式の水手御門は、いわば海の大手門です。

⑩ 朝橋（あさはし）

本丸と二の丸を結んでいる唯一の連絡橋で、当初は欄干橋でしたが、江戸時代中期末頃にはこのような屋根付の橋になっていたようです。

⑪ 天守台

生駒家時代の天守は絵図や古文書によると3重だったとされています。松平家時代の寛文10年（1670年）に改築された天守は3重5階（3重4階＋地下1階）唐造り（南蛮造り）で四国最大の規模を誇っていました。天守は明治17年（1884年）老朽化を理由に取り壊されましたが、平成17年には英国ケンブリッジ大学図書館で天守の鮮明な写真（明治15年撮影）が発見され、平成17年から平成25年にかけて行われた天守台修復工事で地下1階部分から58個の礎石が当時のまま現われるなど天守の再現に期待がかかっています。